

平成29年度 能美学童野球連盟各大会要綱

1. 2017年公認野球規則、(公財)全日本軟式野球連盟2017競技者必携に定める規則および学童部の取決め事項を適用する。
2. 使用球は、(公財)全日本軟式野球連盟公認C号球を使用し、大会本部で用意する(トップボール)。
3. 試合は7回までとし、試合成立は5回。コールドゲームは3回以降15点差、4回以降10点差、5回以降7点差とする。決勝戦のコールドゲームは5回以降7点差とする。
(降雨コールドゲームも、5回終了にて成立するものとする。引き分けの場合再試合とする)
4. 試合時間は1時間45分とする。1時間45分を超えて新しいイニングには入らない(時間優先、ただし決勝戦は最大2時間30分までとする)。
5. 7回終了時または時間による最終回終了時点で同点の場合は、後記の特別延長戦により勝敗を決する。
6. 投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、1日7イニングまでとする。ただし、特別延長戦の直前のイニングを投げ切った投手に限り、1日最大9イニングまで投げることができる。なお、学童部3年生以下にあつては、1日5イニングまでとする。
投球イニングに端数が生じたときの取り扱いについては、3分の1回(アウト1つ)未満の場合であっても、1イニング投球したのものとして数える(平成26年度全軟連盟新規取り決め事項)。
※解釈は<http://www.nomigaku.jp/2014> 投球制限/ を参照。
7. ヘルメットは打者、次打者、走者、ランナーコーチ共に着用すること。
8. 捕手は、レガース、プロテクター、ヘルメット、マスク、ファウルカップを必ず着用する。
(ブルペン、シートノック、攻守交替時の捕手についても同様)
9. 野球用具は、公益財団法人全日本軟式野球連盟公認の用具を使用すること。
10. ゲーム中の抗議は、監督並びに当該選手に限り認めるが、試合進行に協力すること。
11. タイムは、攻守それぞれ3回までとする。なお、延長戦(特別延長戦も含む)は、2イニングに1回とする。
12. 1日2試合を限度とする。

《その他の留意事項》

1. 選手登録(ベンチ入り)は1チーム20名以内とする。
2. 背番号は選手0~27、主将10、監督30、コーチ28・29とする。
3. 主将には、背番号に10番とユニホームの前面に⊕マークをつけること。
4. ベンチ入りの大人は、監督・コーチ・スコアラー・チーム引率責任者を含めた計5名までとする。
※チーム引率責任者とは…チーム代表以外の方でも良いです。登録は、大会参加名簿に記載。大会毎の変更は可能。(ユニホーム姿の大人は3名(30, 29, 28)とし、それ以外の方は私服、チーム帽子着用にて入ること)
5. 監督・コーチは、選手と同一のユニホーム、スパイクを着用すること(選手と意匠をそろえること)。プロ野球選手等がはいている裾幅の広いズボン禁止です。
6. リストバンド、テーピング等の使用は認めない(ただし、必要がある場合はメンバー表交換時に申し出る事)。
7. バッティンググローブ、守備用手袋については着用可能です、ただし色は白か黒とする。バッティンググローブについては、走者となったときは外さなくて良いですが、外す時はしっかりポケットにしまう事。コーチャーに渡す行為はしないでください。
8. ベンチは、組合せ抽選番号の若い方が1塁側とする。
9. 球場内でのバッティング練習(バント含む)は厳禁とします。第一試合のチームで早めに球場入りしアップを行う場合は、アップシューズにて行き、シートノック前に速やかにスパイクに履き替えて下さい。第二試合以降のチームは、アップ時間が短いためスパイクで行っても良いです。なお、練習は外野に限り行うことを認める。ベンチ前でのシートノックは行っても良いですが、トス、バント練習は禁止する。
10. ブルペン使用について、次試合チームのブルペン使用はトス完了後より行ってください。ただし先発ピッチャーのみです。現試合中のチームと次試合のチームお互いに調整して使用してください。

- 1 1. シートロックは、初日および準決勝戦で行う（後攻チームより5分間）。
- 1 2. 攻撃に移るときは、第一打者、次打者、ランナーコーチの4名はミーティングに入らず、直ちに所定の位置に付く事。
- 1 3. 各チームは前の試合の4回終了時までに集合の事（遅刻は失格とみなします）。
- 1 4. 打順表は5部提出とする（1部返却）。その日の第1試合は開始予定時刻の30分前に、第2試合以降は前の試合の4回終了時に監督と主将が大会本部に提出し、登録原簿と照合ののち、球審立会いのもとに攻守を決定する。
- 1 5. 節度ある応援に努め、野次・罵声は禁止する。
鳴り物での応援（笛、太鼓、ペットボトル、うちわ、メガホン等）は禁止します。
- 1 6. 試合後のグラウンド整備は両チーム、応援席の整備は当該チームがあたること。
- 1 7. 選手は必ずスポーツ傷害保険に加入していることとし、ゲーム中事故が生じた場合は、主催者は応急処置をするが責任は無いものとする
- 1 8. 組み合わせにより、塁審及び記録にあたるチームの係は試合に遅れないように注意すること。
- 1 9. 開会式の入場行進への参加は、各大会で提出頂く出場選手名簿の登録選手のみとする。新人大会のみ全員参加できます。アップシューズまたはズックを履くこと。
- 2 0. 抽選会は、監督・主将もしくは、代理・選手が参加すること。
- 2 1. バットボーイ・ボールボーイ・得点表の係りは、必ずヘルメットを着用すること。
（ファウルボールを取りに行く等、ベンチから出る場合は必ずヘルメットを着用すること）
- 2 2. 原則として、三塁側を給水、一塁側をボールボーイ・得点表の係りとする。またボールボーイ係・得点係は控え選手が任務にあたるものとする。
- 2 3. 放送室に入る係りの方は各チーム2名までとする。
- 2 4. プレー中は、ネクストサークル内での素振りは禁止とする。
- 2 5. 投球練習時、ベンチ前での素振りを禁止とする。
- 2 6. 左袖には石川の文字しか入れないこと。
- 2 7. 連盟・スポ少のワッペンは、その年度内だけ使用しても良いこととする。
- 2 8. ベンチ内での電子機器類（携帯電話、パソコン等）、携帯マイクの使用を禁止する。またメガホンは1個に限り使用を認める。
- 2 9. 選手宣誓は、各大会の抽選会で予備抽選1番くじを引いたチームの主将とする。ただし新人大会以降に一度選手宣誓しているチームが1番くじを引いた場合は、2番くじを引いたチームの主将へスライドする。
- 3 0. 第3位の表彰式が終わるまで次試合のチームはグラウンドに入らないでください。次試合は表彰式終了後30分とする。

《特別延長戦》

1. 継続打順で、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁、3塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、無死満塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順でこれを繰り返す。なお、通常の延長戦と同様に規則により認められた選手の交代は許される。
2. 9回（特別延長戦2イニング）を完了しても決着がつかないときは、抽選で勝敗を決する。
（決勝戦については勝敗が決するまで特別延長戦を繰り返す。）

《シード制の適用について》

1. 新人大会の優勝、準優勝チームは、次年度の**春季大会**のシード権を得る
2. 春季大会の優勝、準優勝チームは、当年度の**夏季大会**のシード権を得る
3. 夏季大会の優勝、準優勝チームは、当年度の**秋季大会**のシード権を得る

平成28年3月改訂